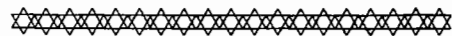


# の裏切りを許すな!

## 佐倉 土屋(粹) すぐる



動労千葉は、六月十九日、第二回組織部長会議を開催し、反処分第一波の闘いの圧倒的高揚に踏まえ、不当処分粉碎、組織強化、さらには、終盤に入った選挙闘争勝利に向けた具体的方針を確認・決定した。会議には、各支部より支部長、組織部長、青年部役員など四十名が参加し、座長に水野執行委員を選出し、議事が進められた。関川本部闘争委員長のあいさつに続いて、布施組織部長による「不当処分粉碎・長期非協力闘争の具体的展開と取組みについて」の方針が提起され、質疑応答に入った。質疑は、この間の減産・非協力闘争の取組み、問題点、今後の闘いの方向性、展望などについて種々の討論が行われ、不当処分に対する各職場での闘い、組合員の怒りが、着実に当局を追いつめ、不当性を満天下に明らかにしていることを再度確認するとともに、反処分・反合闘争勝利の展望を含め当面する闘いについて、全体の意志統一をかちとった。

第2回組織部長会議  
組織強化方針決定!

### 動労「本部」による組織破壊 「千葉再建」策動を粉碎せよ!

「五・三一不当処分」それ自体が、動労千葉の闘いの前進に迫りこまれ、動労千葉破壊のみに血道をあげる「本部」反動分子を利用してのデタラメ極まりない「史上最も汚れた」処分であることは、いりまでもない。

である以上、われわれは、まず何よりも敵の攻撃の本質、狙いをみすえて具体的な闘いに決起しなければならぬ。

攻撃の最終的目標は、動労千葉解体をもってする、反合・三里塚ジェット闘争の圧殺であり、当面する最大の課題は、この敵の狙いを粉碎する組織強化である。

具体的には、「千葉再建」デッチ上げ策動粉碎、「津田沼特別班解体」「銚子支部結成」の闘いの前進をつくり出すこと。

反動・秋山のデタラメな不当処分と動労千葉の処分粉碎闘争に対する挑発行為は、国鉄当局が追い込まれていることの何よりの証であり、第二マル生攻撃を許さず、強固な組織力に立脚した、大胆な戦術行使をもって闘いを展開すること。

動労千葉の反処分・反合の闘いは、動労大改革、戦闘的労働運動の再生へ向けた闘いの出発点であり、激動の八〇年代を切り拓く闘いであることに、自信と確信をもち、全体化し、強固な組織体制を確立することである。

不当処分と呼応し、内部から敵  
対する土屋粹等を糾弾する!

組織部長会議は以上の確認の上で、今日、最も緊急の課題として動労千葉への選別的な不当処分と呼応した「本部」反動分子による「千葉再建」デッチあげ策動を粉碎することを確認した。

「千葉再建」最大の拠点支部「佐倉」と「本部」革マル反動分子が言い実体は、裏切者・土屋粹をはじめとする一部支部である。その張本人、土屋粹は公然と動労千葉への敵対を開始した。

土屋粹等は、今回の選別的な不当処分を手引きした元凶であり、動労千葉に対する最も悪質な敵対者である。

この間、本部との話し合いにおいても二枚舌を使い、その裏では数々の裏切り行為を行ってきた。われわれはこうした当局、反動分子の先兵として、スパイとして、自分の権力欲だけで不当処分を内部から誘導しつつ、動労千葉に敵対する土屋等と断固対決し、糾弾しつくり闘いを展開する。

土屋等が動労千葉千四百名の情理を尽した説得に二枚舌をもって応え、公然たる裏切りを開始した以上、われわれがこの間の土屋等に関する全経過を明らかにし、動労千葉が生き残るのか裏切者が生き残るのかをかけて糾弾、弾劾することは当然である。

「千葉地本再建」策動粉碎に総決起し、佐倉支部強化、銚子支部結成、津田沼「特別班」解体へ断固闘い抜こうではないか。

